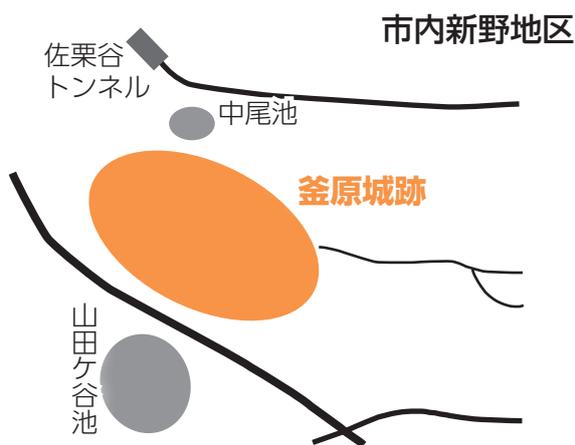




▲釜原城跡の本曲輪部分（平成10年頃撮影）



埋蔵文化財包蔵地
釜原城跡

History

キラリを再発見

周辺に古地名が残る城跡

釜原城跡は、新野中西・坂田に所在する菊川市高橋の佐栗谷から新野中尾・山田ヶ谷集落にまたがる河東山東端の丘陵部にあり、この丘陵地を地元では釜原と呼んでいることから城名になっています。釜原城跡の周辺には、ホンジノ谷（本陣ノ谷カ）、仏念、殿之谷などの地名が残っており、標高66[㍎]、比高44[㍎]のところには本曲輪が設けられ、その西側は「仏念」と呼ばれる急な崖になっています。全体として、谷地形をうまく利用した造りとなっていて、堀切は少ないです。

釜原城跡は、本曲輪から西へのびる一騎駈がよく残っています。今はなき曹洞宗 聖道寺（昭和47年廃寺）に伝わる「聖道寺縁由記」に、「釜原城主は聖道寺の前身（真言宗）の大旦那であり、南北朝期の戦いにて落城した」と書かれていますが、定かではないため、武田家と徳川家の攻防があった戦国時代に古くからあった城を再利用したものと思われる。

照会 社会教育課 ☎0548③1129



海拔22[㍎]の防波壁

中部電力が、浜岡原子力発電所の津波対策として施工している防波壁の設計・建設に関して5月26日、公益財団法人土木学会の「平成26年度土木学会賞（技術賞）」を受賞しました。

中部電力では初めての受賞ということですが、技術賞は、土木技術の発展に顕著な貢献をしており、社会の発展に寄与したと認められるものです。

このたびの受賞は、浜岡原子力発電所における防波壁の設置が、原子力発電所の津波対策として先進的な取り組みであり、安全性の向上に大きく寄与するとともに、土木技術全体の発展に貢献するものであると評価されたことによるものです。

Atomic

暮らしと原子力

浜岡原子力発電所防波壁が
土木学会賞を受賞